

第3回連続講座『いのち』を考える」講師プロフィール

日程	講師（敬称略）	プロフィール
5/8 (水)	青木 新門(あおき しんもん) 作家、詩人	早稲田大学中退後、富山市で飲食店「すからべ」を営む傍ら文学を志す。吉村昭氏の推挙で「文学者」に短編小説「柿の炎」が載るが、店が倒産。1973年冠婚葬祭会社(現オークス)に入社。専務取締役を経て、現在は顧問。1993年葬式の現場の体験を「納棺夫日記」として著しベストセラーとなり全国的に注目される。2008年に「納棺夫日記」を原案とした映画「おくりびと」がアカデミー賞を受賞して再び注目される。
5/15 (水)	細谷 亮太(ほそや りょうた) 聖路加国際病院小児総合医療センター長	東北大学医学部卒業。聖路加国際病院小児科部長、同病院副院長などを経て、現在同病院小児総合医療センター長。専門は小児白血病、腫瘍学、小児保健など。日本小児科学会代議員。著書に「医者が泣くということ」、「小児がん」、「今、伝えたい『いのちの言葉』」他多数。
5/22 (水)	伊藤 高章(いとう たかあき) 桃山学院大学教授	上智大学グリーンケア研究所客員所員。日本スピリチュアルケア学会資格認定制度運営委員長。国際パストラルケア・カウンセリング協会副会長。2002・2003年度スタンフォード大学病院スピリチュアルケア部客員スーパーヴァイザー。
5/29 (水)	田村 恵子(たむら けいこ) 淀川キリスト教病院看護部主任課長、がん看護専門看護師	聖路加看護大学大学院看護学研究科修了。大阪大学大学院医学系研究科修了(医学博士)。2008年ホスピスでがん患者を最後まで看取り、家族の看護にも取り組む姿がNHK「プロフェッショナル仕事の流儀」で放映され反響を呼ぶ。また、2012年TBS系ドラマ「奇跡のホスピス～人生の“わすれもの”ってなんですか?～」主人公・田辺礼子のモデルとなる。著書に「余命18日をどう生きるか」など。
6/5 (水)	田中 幸子(たなか さちこ) 「全国自死遺族連絡会」世話人	2005年、当時警察官だった長男を自死により失う。その翌年、遺族による自助グループ「藍の会」を仙台市に立ち上げ代表を務める。会員は全国に広がる。また、子供を亡くした親の会「つむぎの会」代表、仙台市・角田市・宮城県の自死対策委員も務める。著書に「『会いたい』自死で逝った愛しいあなた」など。
6/12 (水)	大井 玄(おおい げん) 東京大学名誉教授	東京大学医学部卒業。ハーバード大学公衆衛生大学院修了。東大医学部教授などを経て、国立環境研究所所長を務めた。専門は社会医学、一般内科、在宅医療、心療内科、環境医学。現在も臨床医として、終末期医療全般に関わる。著書に「終末期医療」、「痴呆の哲学」、「『痴呆老人』は何を見ているか」、「人間の往生」など。
6/19 (水)	島園 進(しまどの すずむ) 東京大学教授	東京大学文学部宗教学科卒業。東京外国語大学日本語学科助手などを経て、現在、東京大学大学院人文社会系研究科・文学部宗教学科教授。主な研究領域は宗教学理論、比較宗教運動論、近代日本宗教史。日本を代表する宗教学者であり、死生学の第一人者である。著書に「現代宗教とスピリチュアリティ」他多数。
6/26 (水)	河邊 貴子(かわべ たかこ) 聖心女子大学教授	東京学芸大学大学院教育学研究科修士課程修了。公立幼稚園にて保育に携わった後、都立教育研究所にて指導主事。夫のがん闘病を支えるために退職し、2年後に見送る。その時の体験を「河辺家のホスピス絵日記」(山崎章郎医師と共著)にまとめる。この体験を生かし、医療と地域をつなぐNPO法人の活動や、ホスピスに絵本を届けるボランティア活動がライフワークの一つとなっている。
7/3 (水)	柏木 哲夫(かしわぎ てつお) 金城学院学院長、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長	大阪大学医学部卒業。ワシントン大学留学。淀川キリスト教病院で日本最初のホスピスプログラムをスタート。大阪大学人間科学部教授を経て金城学院大学学長。現在学院長。日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長、JR西日本あんしん社会財団理事。著書に『死にざまにこそ人生-ありがとうと言って逝くための10のヒント』他多数。
7/10 (水)	水谷 修(みずたに おさむ) 花園大学客員教授、関西大学客員教授	上智大学文学部哲学科卒業。横浜市で長く高校教員として生徒指導を担当し、中・高生の非行・こころの問題等に関わり、生徒の更生と非行防止等を精力的に行う。また、若者たちから「夜回り先生」と呼ばれ、多くの若者たちとふれあい、非行防止と更生に取り組んでいる。現場での経験をもとに、雑誌への執筆、テレビ、ラジオへの出演、日本各地での講演を通して、子どもたちが直面している様々な問題について訴えている。